

目 標：レビの救いの物語を通して、暗誦聖句に込められている「義人」「罪人」の意味を考える。

聖書箇所：マルコ 2：13-17 時 間：10分

暗誦聖句：「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」(マルコによる福音書 2：17)

道 具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：レビについての解説は、以前イスラエル旅行に行った時の柿内ルツ師の解説を下敷きにする。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	皆さんは罪人と言ったら、どのような意味だと思いますか。 それでは義人と言ったら、どのような意味だと思いますか。 それでは、本日の暗誦聖句はこういう意味になりますね。 どう思いますか？	<ul style="list-style-type: none"> • 悪いことをした人。 • いい人。 • 義人って何？ 	<p>例を挙げさせて、板書する。</p> <p>例を挙げさせ板書する。子供たちからでなければ、教師から提示する。</p> <p>上記2点を言い換えて、暗誦聖句を読む。</p>
課題探究	6分	<p>カペナウムの収税所に、アルパヨという人の子供で、レビという人がいました。</p> <p>イエス様はそこに座っているレビに「私に従ってください」と言われました。</p> <p>レビはどうしたと思いますか。</p> <p>その後レビがイエス様についていくお祝いの会を開いていた時のことです。ある人たちが、イエス様の弟子に「なぜあなた方の先生は取税人や罪人と一緒に食事なんかするんだね」と尋ねました。そこでイエス様が答えたのが本日の暗誦聖句です。義人とは、自分を正しいと思っている人です。その人に、イエス様は用はない一方、罪人だと思っている人は誰でも、イエス様は救われます。イエス様は、罪人を救う救い主だからです。誰がイエス様に応答するか、私たちには知りません。だからこそ、私たちは、友達を主イエスの許へ連れていきましょう。</p> <p>暗誦聖句</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 従った。 • びっくりした。 • 従わなかった。 	<p>感想を挙げさせ、疑問を持たせて、レビの物語に入る。この収税所はヨルダン川の渡し場であり、レビのもう一つの名は、マタイ福音書を書いたあのマタイであることなど、情景にも触れる。</p> <p>取税人は、外国であるローマ帝国のためにみんなから税金を納めるため、人々に罪人と呼ばれ嫌われていたことに触れる。</p> <p>それまでどんなやり取りがあったのかは分かりませんが、考えれば考えるほど、レビの決断の不思議さやすごさが浮き彫りになると思うので、正解が出て、生活のリスクなど反証などして、深く考えさせたい。</p> <p>パリサイ派の律法学者であることには、触れないく手もよい。</p> <p>一緒に食事をすることは、私たちは一緒だという意味があることに触れておく。</p> <p>一緒に読む。</p> <p>最初の「罪人」「義人」の意味と比較し、イエス様の言葉の意味を掴ませたい。</p> <p>子供たちの反応によっては「しかし本当に義人だと言える人などいるのか」という問いを行い、テーマを深める。</p>
まとめ	2分			188号のテーマからの反映。